

紅梅

校門近くに、凜として立ち、存在感をしめしている紅梅は、生き続けて約100年になります。まさに本庄小学校のシンボルです。

明治43年現在の公民館・JAの敷地に、地域のみなさんの寄付で植えられました。昭和40年3月に旧校舎に移った時、この木も地域の方々がひっばって来て植えかえられました。この木は、これからもみんなの成長を見守ってくれる記念すべき木です。

昭和40年の移植の様子



移植当時の写真より

移植最終日(昭和40年3月22日から3日間移植作業が行われる)

卒業生憧れの的であった「紅梅」が百数十人の人々に引かれ、満開の晴姿で堂々町内を行進して移植した時は^{あたたか} 恰も伝統ある本庄小学校の魂が移ったように感じました。

新校舎がああ紅梅と共に何時までも栄えるよう衷心より祈ってやみません。

新校舎竣工記念誌より
(当時、教頭 門脇美夫様の建築余話から抜粋)

平成19年の移植の様子



平成19年12月4日

根っこが痛まないようにこも
で巻きつけています。
ここまでの作業がたいへん
でした。

平成19年に現在の場所に移植 されました。

看板には、このように書かれています。

「この木は明治43年に地域のみなさんの
寄付で植えられました。

昭和40年3月校舎が今の場所に移った
時、この木も地域の方々がひっばって
来て植えかえられました。

この木はこれからもみんなの成長を見
守ってくれます。みんなで記念の木を
大切にしましょう。」 看板作成(平成9年)

そして再び新校舎建築により10m離れた
校門近くに移植されました。



平成20年2月

クレーン車でつりあげる
準備完了。



平成19年12月8日



平成19年12月8日

先にクレーン車で糸杉が運
ばれました。
紅梅も運ばれ、2本の木が
なかよく並んで植えられま
した。

紅梅・糸杉の歴史

百年の歴史を刻んできた紅梅が、日々学校を見守ってくれています。また、昭和40年に植えられた糸杉も高さが約30メートルにまでなり、長く語り継がれた歴史を感じます。紅梅・糸杉の2本の木は、長く子どもたちや地域の皆様に愛され、今日まで生き続けています。校舎建築に当たって、紅梅は昭和40年に旧校舎庭より移植され、平成19年に再び校舎建築で現在の場所に移植されました。紅梅・糸杉の2本の木は、これからもずっと愛されていくことでしょう。



移植されて、はじめて咲いた紅梅(平成20年3月)

松江市立本庄小学校

イタリア杉(糸杉)

イタリアの庭木で、イタリアの庭園ではメインの木です。〔紡錘形の形/和名(日本では)糸杉] 昭和35年頃、赤十字思想生誕百周年ということで(赤十字の設立を提唱したのは、スイス人のアンリ・ジュナン。1859年、イタリア統一戦争の激戦の中、救助活動を行った。) イタリア大使が日本にこの糸杉のタネを寄贈してくださいました。

元日本赤十字高等科講師、本田担^{ひし}先生は、このタネを東京から持ち帰られる。松江農林高校^{かけい} 寛弘^{ひろ}先生が育てられる。昭和40年、本庄小学校の校舎の新築時、松田先生より20センチ位の苗木をいただき(松本行雄)、校舎の玄関に植えたものである。県内では、今や100本余りしか残っていない。本庄小学校のように、目算で30mの巨大樹に成長しているのは極めて珍しい。移植したら枯れるそうです。大切にしたいものですね。

(松本行雄様 文書より)

糸杉の種子

平成19年移植時に種子を採取しました。



平成20年2月にまいた種子が2年後このように成長しました。

平成19年12月移植の様子



根っこをこもで巻きつけ、クレーン車で運ばれました。



糸杉も、まさに紅梅と並んで本庄小学校のシンボルです。40数年間ずっと玄関横ですくすく成長してきました。おそらくイタリアの気候風土に似ていたのでしょう。大切にしたいものです。